

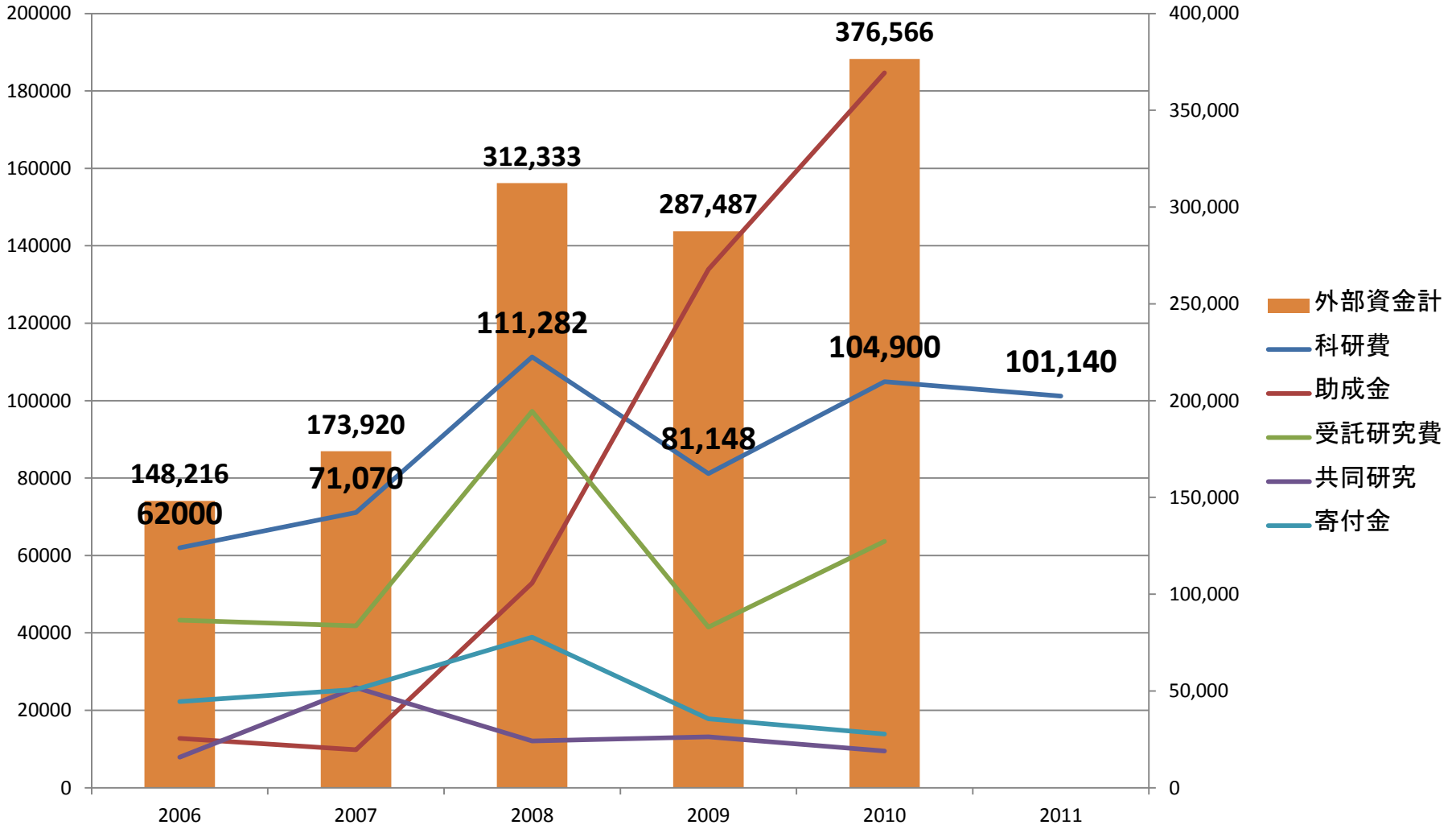
H24科研費の獲得に向けて

1. 理大の現状
2. 採択率をUPするために
3. 申請者へのメリット
4. 適正な運用について
5. 申請に向けた予定

平成23年7月21日 教授会(3学部)

学外連携推進室

1. 理大の現状 外部資金の推移



科研費は1億円で推移(年度単位の合計)。(132百万円基金化)

●科研費 全国大学の評価指標から

1. 教育学術新聞：(日本私立大学協会発行)

配分金額 私学ランキング(新規＋継続)

●H23=全国私大74位(H22応募時点)

●H22=60位 H21=77位 H20=62位 H19=81位

2. 参考：2012年大学ランキング(朝日新聞出版)

●教員一人あたり金額70位 奈女107万円まで掲載

(参考) ○本学獲得額1位 生物地球システム学科102万円／人

○本学応募率1位 生体医工学科108%国立平均以上

理大 H23の応募状況(継続含む)

● **全国平均 国立105%、公立74%**

所属	理	工	総情	自然研
教員人数	98	103	47	10
応募数	52	63	15	4
前年 応募状況	57%	68%	47%	50%
今年	53%	<u>61%</u>	33%	40%

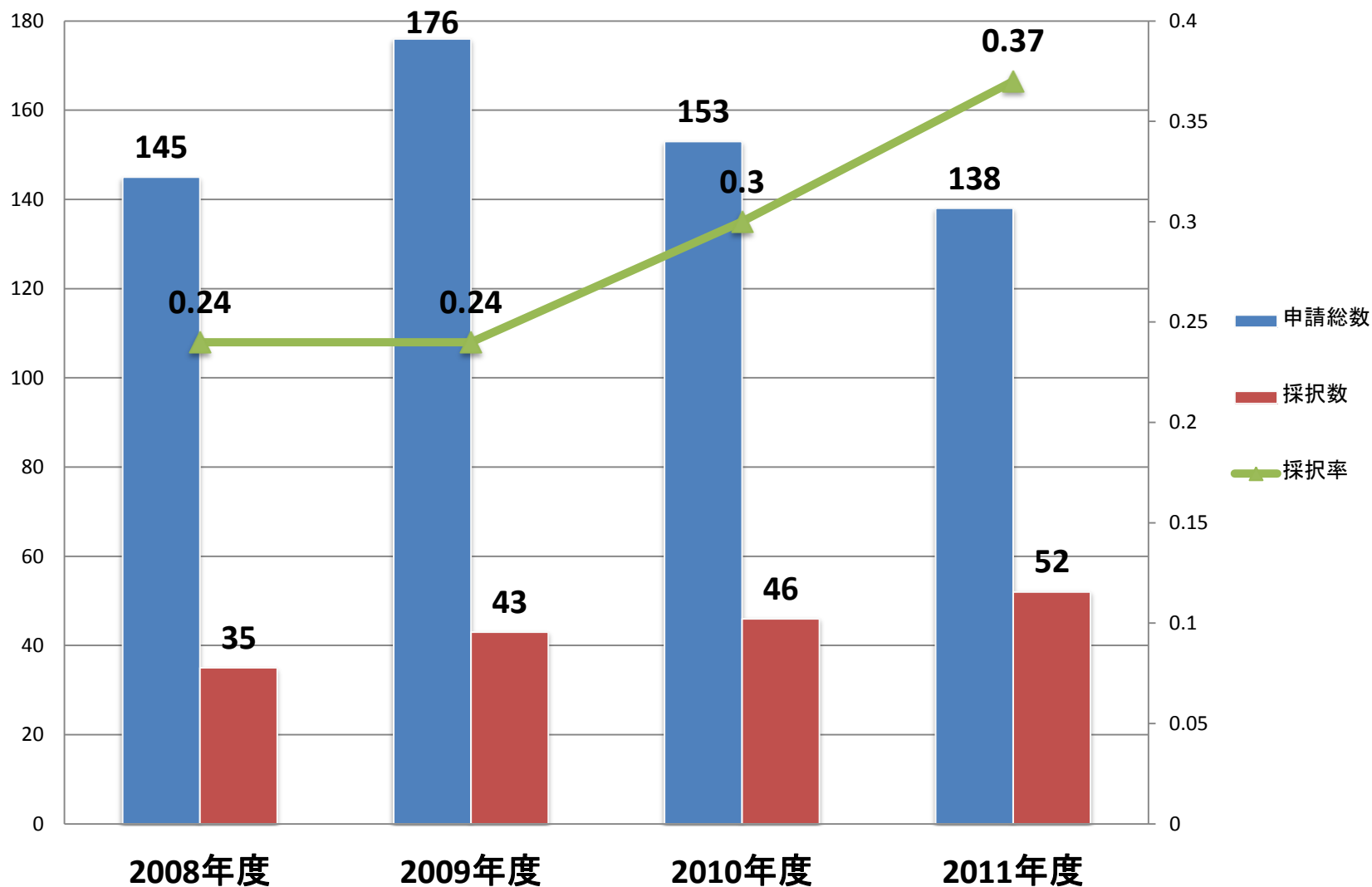
注) H23年4月の在籍で算定。

本学 種目別 新規のみ 採択率

	申請数	採択数	本学採択%		全国平均	
			昨年	23年	昨年	23年
特定+新学術	2	0	<u>20</u>	0	26.2	28.8
基盤A	2	1	<u>50</u>	50	23.3	25.9
基盤B	13	1	<u>7</u>	7	25.6	25.6
基盤C	56	9	<u>15.5</u>	<u>16.0</u>	23.8	<u>29.9</u>
挑戦的萌芽	10	1	<u>14.2</u>	10.0	11.3	<u>29.9</u>
若手B	17	4	<u>11</u>	<u>23.5</u>	24.4	<u>29.9</u>
全体	103	<u>18</u>	<u>14.6</u>	<u>17.4</u>	22.4	28.9

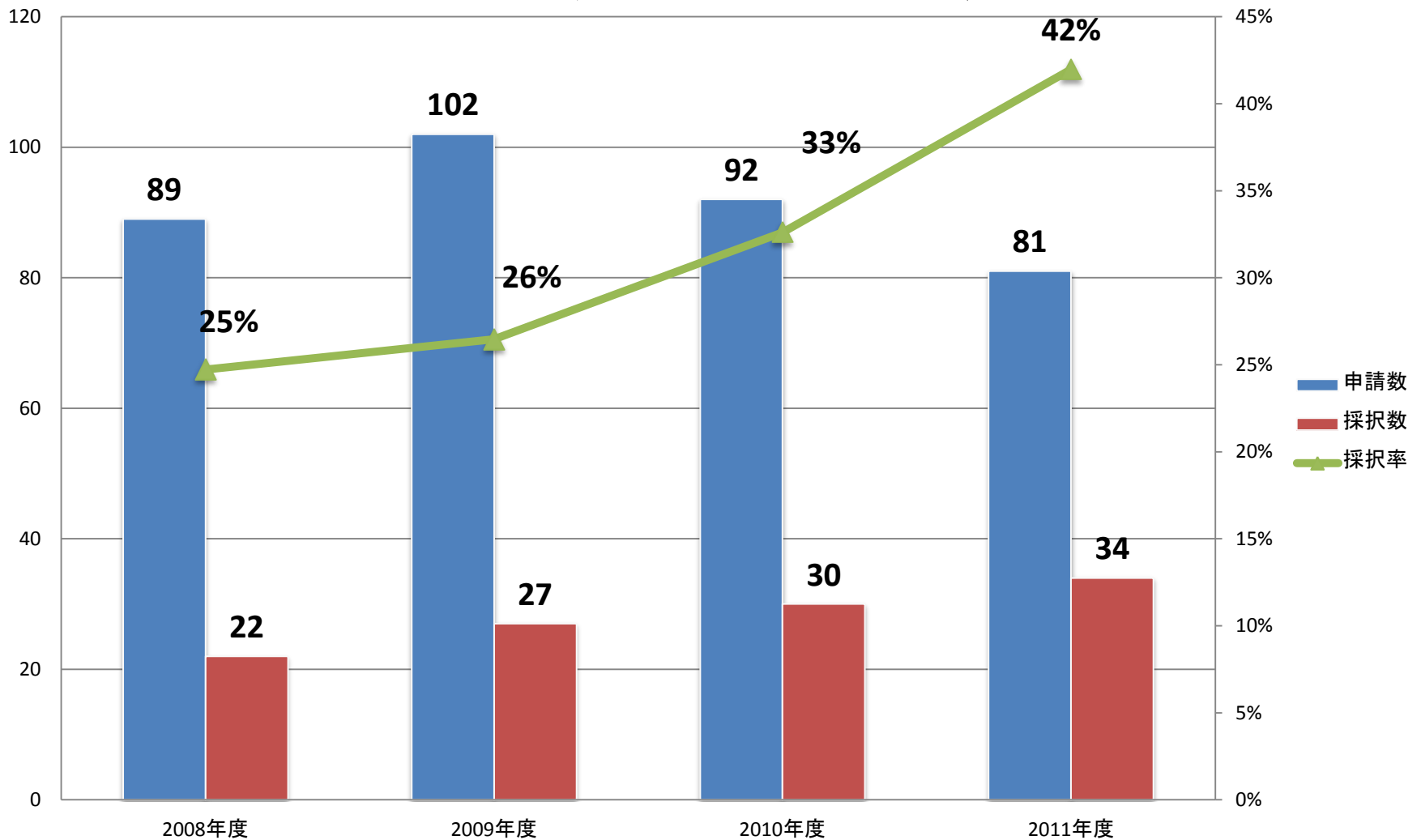
全国基盤C,萌芽,若手Bは3割。本学は新規は若手B上昇

本学 応募数・採択数・採択率(継続込 4月在籍)



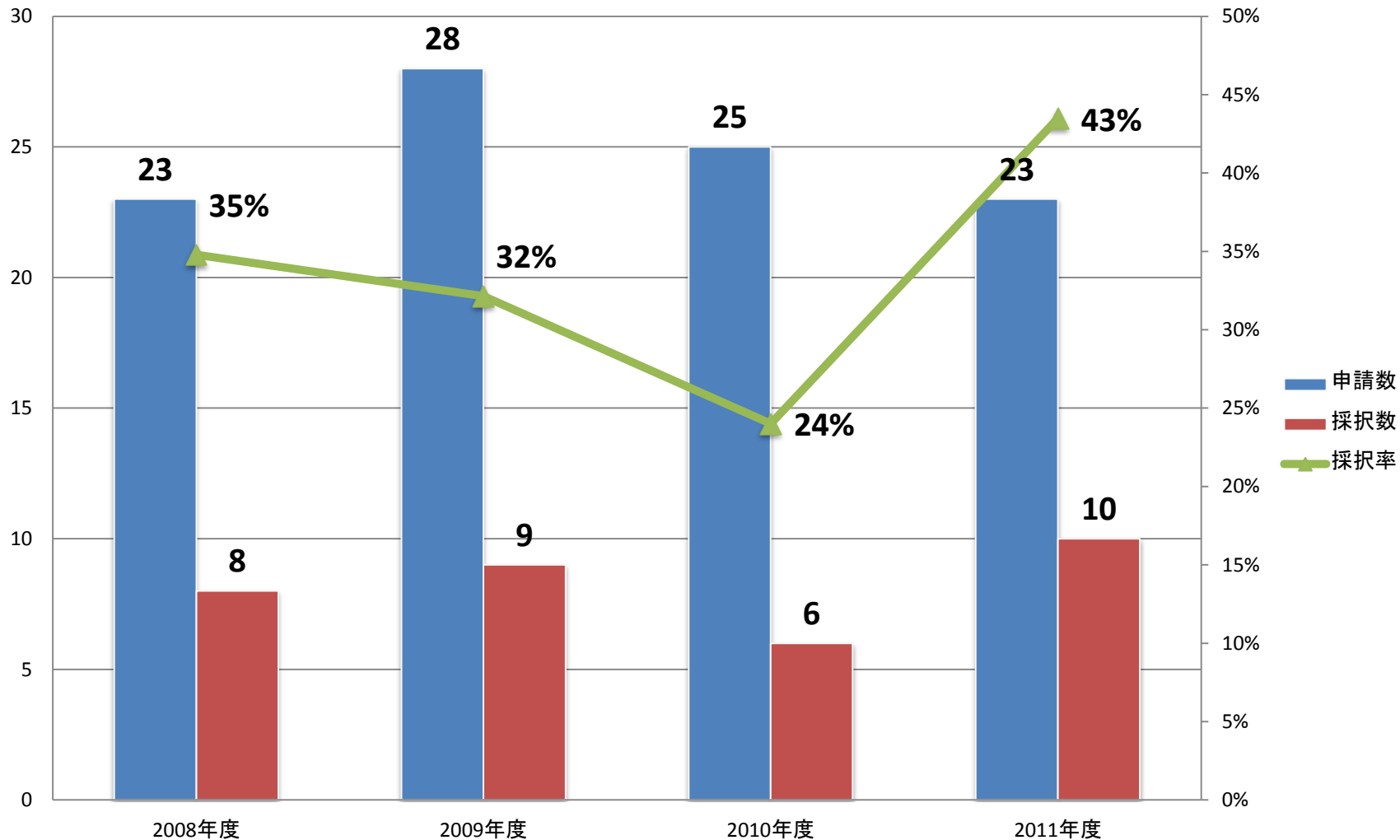
採択率 3.7%へ向上。全国は 49.7% (前年 45.3%)

基盤C(継続込) 採択率UP



全国平均 53.6% (前年 49%) 【新規 9 件】

若手B(継続込)の採択率UP



全国平均 49.0% (前年 44.8%) 【新規 4件】

申請率ランキング (H23.4所属学科でカウント。建築合算)

	学科	教員数	申請数	申請率(新規+継続)
1	生体	12	13	108.3%
2	知能	12	10	91.7%
3	臨床	14	10	71.4%
4	バイオ	17	11	64.7%
5	化学	14	9	64.3%
	工学部小計	103	63	61.2%
6	動物	9	5	55.6%
7	建築(工+総3)	15	8	53.3%
	理学部小計	98	52	53.1%
	全学合計	271	138	50.9%
	総合情報学部小計	47	15	31.9%

採択率ランキング(継続込)

国立55%・公立48%

	学科	教員数	採択件数	採択率(新規+継続)
1	知能	12	6	50.0%
2	生体	12	5	41.7%
3	建築(工)	12	4	33.3%
4	応数	16	5	31.3%
5	生地	14	4	28.6%
6	機シ	16	4	25.0%
	工学部小計	103	25	24.3%
7	バイオ	17	4	23.5%
	社情	14	3	21.4%
	総合情報学部小計	47	10	21.2%
	全学合計	271	52	19.2%
	理学部小計	98	16	16.3%

教員一人あたり 獲得金額ランキング(継続込)

	学科	教員数	教員1人あたり(円)
1	生地	14	1,012,143
2	建築(工)	12	964,167
3	バイオ	17	665,294
4	知能	12	628,333
5	社情	14	622,143
6	生体	12	617,500
7	総合情報学部	47	553,191
8	大学全体	271	438,257
9	生化	14	436,429
10	工学部	103	435,437
11	学部全体	248	407,823
16	理学部	98	309,082

新学術、基盤A、B獲得または基盤C等を多数獲得した学科が上位に

2・1 採択率をUPするために

目標1. 応募数増加。

目安：国立105%、公立74%

→ 生体108% (1人1件以上)【本学平均50%】

目標2. 採択率の高い種目への応募

→ H23採択率30% 若手B,基盤Cへ応募

目標3. グループ化による大型への応募

2・2 採択率をUPするために

目的: 研究計画書の作成サポート

→ 研究遂行力、研究費用の妥当性等

- 1) 作成時にアドバイザー紹介、添削
- 2) 過去に採択された申請書実物公開
- 3) 実績のある教員の講演(9月末予定)

2・3 人文社会系へのおすすめ

全国の人文社会系＝科研費総額の約13%

→ 本学の基盤A、基盤B海外は人文系で獲得

本学の人文社会系は総額の20%を獲得中。

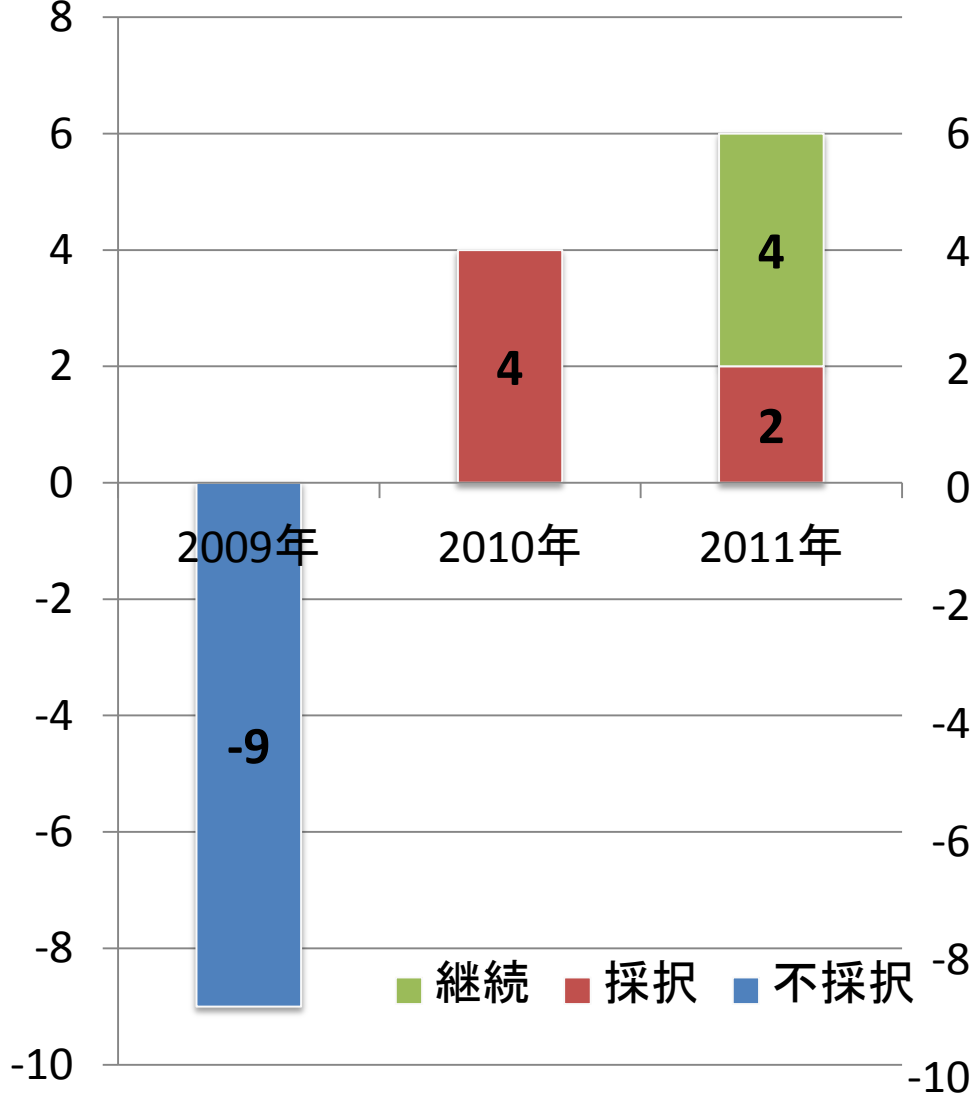
3. 申請者へのメリット(本学独自)

●科研費申請を奨励するために、500万円の奨励費を準備しています。

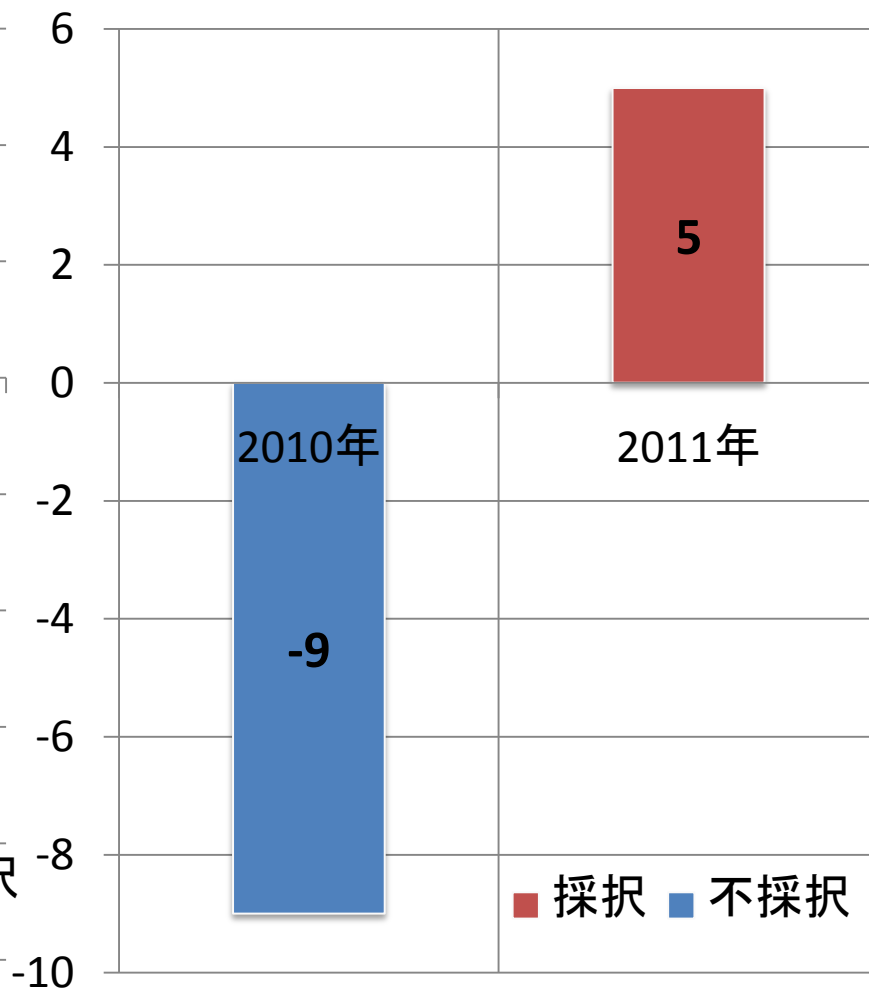
①若手教員研究奨励金 200万円
採択された准教授以下に差額を補填

②申請奨励費 300万円
不採択者でも「Aランク」者へ按分し配分
A不採択者は、翌年度可能性が高い

2009年「A」不採択9名



2010年「A」不採択9名



4. 適正使用・監査の義務化

● 補助金の内部監査の義務化

= 税金「最小の経費で最大の効果を」

→ 補助金は事業に使用、計画的に使用。

→ 物品検収は事務局が行います。

● 白書とHPにもガイドラインを掲載しています。

● **最近の不正行為: 山口大・東大・阪大**

例: 業者が預かり金として管理、
カラ出張、水増出張等

5. 申請のスケジュール

1) 9月1日公募開始予定

① 学内応募説明会(ベテラン教員講演)

★ 添削相談は9月末迄(学外連携へ)

★ 様式等はHPへ掲載します。

2) 学内迄切りは10月20日頃予定

3) 翌4月1日 採否発表予定

ご静聴有り難うございました

ご相談は学外連携推進室まで
1学舎1階(学長室隣)

科研費の基金化

①基金化3種目【H23年度新規より】

平成23年度新規採択分は複数年にわたる研究費使用を可能とする「基金化」となった「若手研究(B)」「挑戦的萌芽研究」「基盤研究C)」

②基金化は補助金の前倒し使用、次年度繰越が容易に。

大震災による科研費への影響

1) 国からの通知(7月11日着が最新情報)

- ① 震災復興財源確保面から、交付決定額に関わらず減額される可能性有り。
- ② 補助金の慎重な執行に留意する。
- ③ 分割払い見込み。7月に交付決定額の7割。
- ④ 残金がどうなるか触れられていない。

2) 間接経費の要望割合も変更。→7月25日✕

7割の40% = 28%に縮小。科研システム保留